

技術支援の分類

凡例：◆受援側、◇支援側

| 手法 | 主体 | 対応方策(案) | 期待される効果 (メリット) | 解決すべき課題等 (デメリット) |
|----|----|---|---|--|
| 連携 | 公 | ○技術職員の交流 ○共同研修(訓練)の実施 ○勉強会(研究会)の実施 ○災害時相互応援の実施 | ◇◆技術の継承 ◇◆技術力の相互補完 ◇◆災害対応能力の向上 | ◇◆市町間の調整が必要 |
| 派遣 | 公 | ○調査チームの派遣 ○講師(指導者)の派遣 ○技術者の派遣 ○ベテラン職員の派遣 ○アドバイザーの派遣 | ◆技術力の向上 ◆外部からの技術の継承 ◇経験機会の確保が可能 | ◇継続には専門組織が必要 ◇OB等派遣人材の確保が必要 ◇業務負担の増加 ◇◆費用負担の調整が必要 |
| | 公民 | | ◆技術力の向上 ◆外部からの技術の継承 ◇派遣人材の確保が容易 | ◇民間への費用負担が必要 ◇業務負担の増加 ◇◆情報漏洩対策が必要 ◇責任分担の調整が必要 |
| 委託 | 公 | ○個別の業務委託 ○浄水場の第三者委託 | ◆業務上で公的判断が容易 ◇経験機会の確保が可能 | ◆経験機会が減少 ◇専門組織が必要 ◇比較的にコストが高い |
| | 公民 | ○個別の業務委託 ○浄水場の第三者委託 | ◆コスト削減が可能 ◇経験機会の確保が可能 ◇実績機会の確保が可能 | ◆経験機会が減少 ◇専門組織が必要 ◇責任分担の調整が必要 |
| | 民 | ○個別の業務委託 ○第三者委託 ○上下分離方式による委託 ○DB、PFIによる委託 | ◆コスト削減が可能 ◆人材確保が可能 ◇実績機会の確保が可能 | ◆責任の明確化が必要 ◇ある程度の発注規模が必要 ◇◆情報漏洩対策が必要 |

(参考) 技術支援の事例

| 手法 | 主体 | 事例 | 内 容 | |
|----|----|------------------|---------------------------------------|---|
| 連携 | 公 | 兵庫県水道災害相互応援協定 | 県内全水道事業者 | <ul style="list-style-type: none"> ・資材情報の共有化 ・訓練の共同実施 |
| 派遣 | 公 | 奈良県 (簡易水道エリア) | 県営水道 保健所 水質検査センター | <ul style="list-style-type: none"> ・簡易水道へ支援活動 (業務補助、助言など) |
| 委託 | 公 | 横浜ウォーター(株) | 横浜市水道局 | <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー、運営支援など |
| | | (株)大阪水道総合サービス | 大阪市水道局 | <ul style="list-style-type: none"> ・運転管理、維持管理、設計施工、営業など |
| | 公民 | (株)水みらい広島 | 企業局 水ing(株) | <ul style="list-style-type: none"> ・運転管理、検針、料金徴収業務など |
| | 民 | 箱根水道パートナーズ(株) | JFEエンジニアリング(株) 管工事組合 (株)ジェネッツ 他 | <ul style="list-style-type: none"> ・管理、運営、施設関連、危機管理など |